

12月11日 ルカによる福音書1章5～25節 今日の説教から

説教題：「あなたの願いは聞き入れられた」

今日の聖書箇所には、洗礼者ヨハネの誕生にまつわる出来事が記されています。老齢にして自分に子どもが与えられるという天使の言葉がザカリアに臨むのですが、ザカリアはその言葉を信じる事が出来ず、その結果「ヨハネが生まれるまで口がきけなくなる」という罰が降ります。同じルカによる福音書1章の最後の部分では、ヨハネが生まれた直後の名付けの場面において、「父親に、『この子に何と名を付けたいか』と手振りで見せた。父親は字を書く板を出させて、『この子の名はヨハネ』と書いたので、人々は皆驚いた。すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、神を賛美し始めた」とあります。ここで、周囲の人々がザカリアに対して「手振り」で見せていることを考えると、ザカリアはしゃべることが出来なくなっているだけではなく、耳も聞こえなくなっているようです。

そう考えると、ザカリアに最初に与えられたのは「沈黙」ではなく「静寂」だったと考えられます。神殿における仕事の最中に、急に与えられた静寂の中で神殿に響き渡る人々の祈りの声が次第に遠ざかっていき、彼を取り巻くすべての音が排除されていきます。そこでザカリアは人間の都合や欲望にまみれた祈りの声ではなく、神様との一対一の対話を、静かに心を通わせる時を持つことが出来たのです。そして、ザカリアはその静寂を通して、自分の「心の奥底にあった本当の願い」に出会うことが出来ました。ただ単純に子どもが欲しかったという思い以上に、罪人の嫌疑を晴らしたいという思い以上に、ザカリアとエリサベトに必要なだったのは、「神様が共にいる」「神様は見捨てていない」という確信だったのです。

私たちも、ただ神様を感じるための静かな祈りの時間を通じて信仰を育むことが出来ると思います。忙しい日々を送る中で、自分の時間をただ神様だけに捧げる。何も考えず、何も言葉にせず、ただ神様を感じる祈りの時間。その祈りを通じて私たちは心の奥底の、私たちの「本当の願い」に気付くことが出来るのではないのでしょうか。

そして、私たちは、その祈りが、その願いが確かに「聞き届けられる」と信じているからこそ、祈りに意味を見出すことが出来るのです。マタイによる福音書6章には、「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」と主の祈りを教えるイエス様の言葉が記されています。その言葉の通りに、私たちが祈りを捧げるその時、私たちに本当に必要なものを心の奥底からすくい上げて下さる方が私たちの神さまです。時にそれは驚くべき形で実現するものですが、そのすべてが神様のご計画の中で行われていることを、私たちは信頼して歩むことが出来るのです。

洗礼者ヨハネの誕生は、老齢の夫婦からの誕生という驚くべき奇蹟によって支えられました。イエス様の誕生も、「マリアの賛歌」という祈りに支えられて、馬小屋の中の、まぶねの中へと導かれてゆきます。結婚する前に子どもが出来てしまうという圧倒的な驚きの中で、ともすれば大きな苦しみを背負うことになるその状況で、それでも自分ではなく「神様のために」という信仰の祈りによって、イエス様がこの世に生まれてきました。そのクリスマスが、もうすぐそこまで迫っています。このアドヴェントの日々を、クリスマスまでの日々を、祈りによって強められながら共に歩んでいきましょう。

今日の説教箇所：ルカによる福音書1章5～25節

- 5:ユダヤの王ヘロデの時代、アビヤ組の祭司にザカリアという人がいた。その妻はアロン家の娘の一人で、名をエリサベトといった。二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。しかし、エリサベトは不妊の女だったので、彼らには、子供がなく、二人とも既に年をとっていた。さて、ザカリアは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、祭司職のしきたりによってくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった。香をたいている間、大勢の民衆が皆外で祈っていた。
- 10:すると、主の天使が現れ、香壇の右に立った。ザカリアはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。彼はエリヤの霊と力で主に先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」
- 17:そこで、ザカリアは天使に言った。「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」天使は答えた。「わたしはガブリエル、神の前に立つ者。あなたに話しかけて、この喜ばしい知らせを伝えるために遣わされたのである。あなたは口が利けなくなり、この事の起こる日まで話すことができなくなる。時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである。」民衆はザカリアを待っていた。そして、彼が聖所で手間取るのを、不思議に思っていた。ザカリアはやっと出て来たけれども、話すことができなかった。そこで、人々は彼が聖所で幻を見たのだと悟った。ザカリアは身振りで示すだけで、口が利けないままだった。やがて、務めの期間が終わって自分の家に帰った。その後、妻エリサベトは身ごもって、五か月の間身を隠していた。そして、こう言った。「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間からわたしの恥を取り去ってくださいました。」